

2024年6月6日 令和6年度『第1回 市町村職員防災連続講座』

# 防災対策をUnlearn

～市町村における避難対策の再考～

金井 昌信

kanai@gunma-u.ac.jp

群馬大学 大学院理工学府 教授

広域首都圏防災研究センター

## わが国の防災対策の現状

### 災害への備え(防災)は重要な社会課題

(自助・共助・公助)

行政による防災対策だけで、  
被害をなくすことには限界がある

日頃からのご近所付き合いを深めて、  
地域みんなでがんばろう！

日頃から防災意識を高くもって、  
災害に備えよう！

公助は、  
『行政サービス』  
から  
『行政サポート』へ

本日、皆さんにお伝えしたいこと

アンラーン\*

# Unlearn

これまでに身につけた思考のクセを取り除く

“**当たり前**”と**思**っていたことを**再考**してみませんか

\*柳川 範之・ 為末 大 : Unlearn(アンラーン) 人生100年時代の新しい「学び」など

まずは、おことわり

防災に『唯一絶対の正解』はない！

(ただし、不正解はある)

居住地や個人属性によって、適切な対応は異なる

⇒あなたに適した対応策は、あなたが考えるしかない！

個別具体の知識のご提供には限界あり (安易に答えをもとめないで…)

多様な価値観、考え方があってよいはず

⇒あなたにとっての正解が、他の人の正解とは限らない！

気付いていただくことを重視 (都合よく解釈しないで…)

# 『令和6年能登半島地震』に思うこと

## 震度7の地震は『別物』

最大震度7を観測した地域がある地震による被害は、  
それ以下の地震と比較して被害が段違いに大きくなる

## よく言われている備えは『別物』には通用しない

地震による犠牲者をゼロにすることには限界がある  
どんなに備えていても、被災後の不便を減らすことには限界あり！

## 皆さんにとっての別物（震度7の地震と同レベル）とは？

ほとんど発生しないかもしれないが、  
発生した場合にはどうにもならないことを**覚悟**すべき！

# 近助だけでなく、被災地から離れる備えを！

## 近助

災害時に役に立つのは、

遠くの親戚より

近くの他人

「隣近所で助け合う(共助)」

が重要！

と言われている

(特に被災経験者)

## 縁故避難

不便な被災地を離れる

近くの他人より

遠くの親戚・知人

いざというときに

身を寄せることができる

安全な場所(人)を2カ所確保！

(可能な世帯はぜひ！)

緊急避難≠避難生活 それぞれ考えて！

## 緊急避難

### 命を守るための行動

- ⇒浸水より高い場所にいる  
(自宅避難、避難所避難)
- ⇒浸水しないところに行く  
(避難所避難、広域避難)

### とにかく命を守る！

⇒数時間の不便は受け入れる

## 避難生活

### 避難所での仮生活

←浸水被害等により自宅で生活できなくなった場合

### 緊急避難先≠避難生活先

←安全を確認してから移動すればよい

### 不便が嫌なら備えとけ

⇒避難所運営は避難者がやる

## “避難”に関する課題

### ■ 知ろうとしないし、考えようともしない

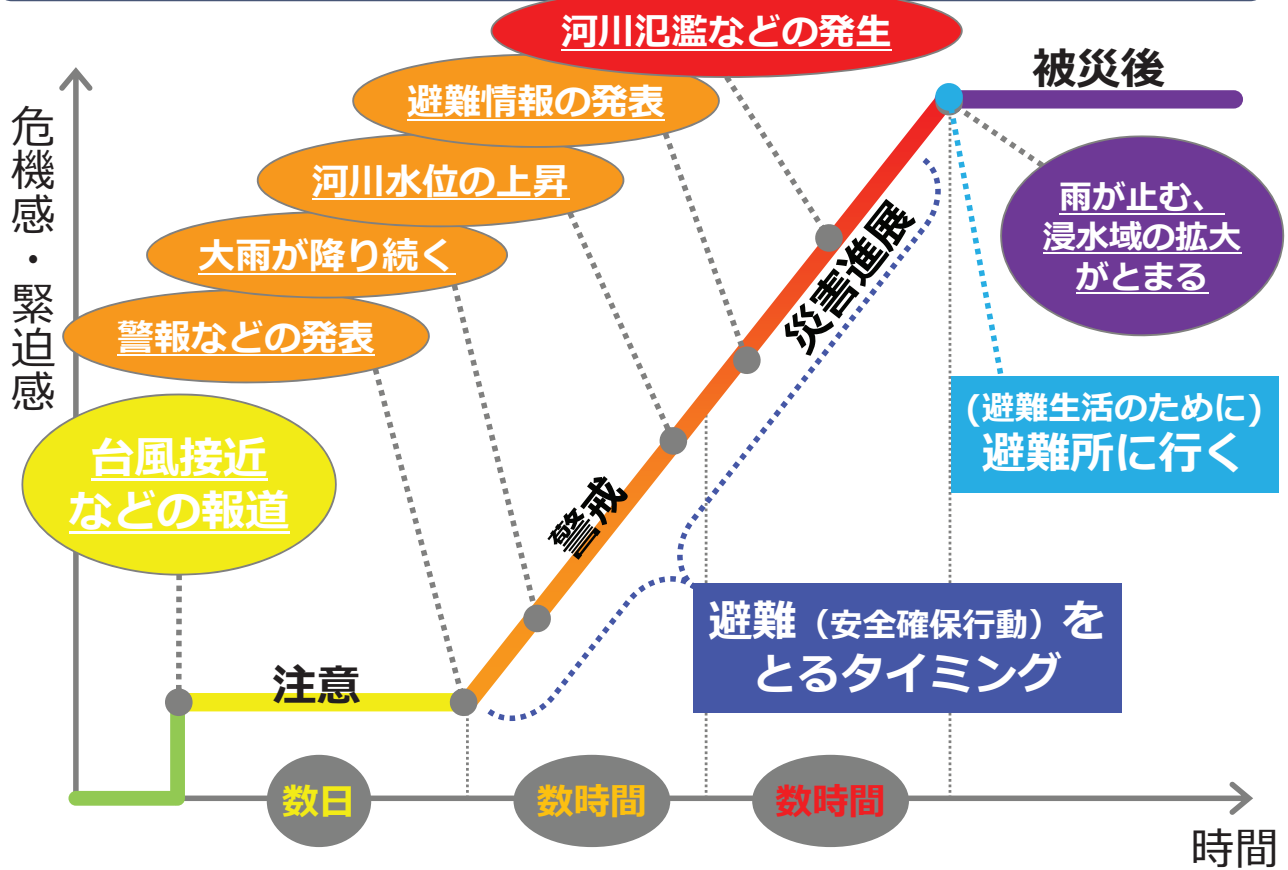
- ・地域でどのような災害の危険性があるのかは、HMなどで公表済み  
⇒「知らない」のではなく、「**知ろうとしない**」ことが問題！
- ・避難に関する情報は、災害報道などからでも簡単に手に入る  
⇒「わからない」ではなく、「**考えようともしない**」ことが問題！

### ■ 「わかっちゃいるけど・・・」ではなく、

### 『わかっていても難しい』

- ・刻一刻と状況が変化する中で「今がそのとき」と決断するのは困難

# 風水害から避難することの難しさ



## 適切な“避難”のための備え

### ■ 地域の災害リスクを知る

- ・ どのような災害によって、どの程度のリスクがあるのかを把握する

### ■ 適切な避難方法を考える

- ・ 災害種別ごとに、命を守るための適切な対応を検討しておく

### ■ 行動できない己を知る

- ・ 死に対して、他人事に考えてしまう（正常化の偏見）
- ・ 置かれた状況を、都合よく解釈してしまう（認知的不協和）
- ・ 何かあったら、他人任せにしてしまう（防災に関する行政依存性）

敵を知り己を知る

## 私案 | 避難（安全確保行動）のための備え

### × どこに逃げるかを考えておく

(例) 何かあったら、最寄りの避難所(学校)に行けばよい

### △ いつ、どこに逃げるのかを決めておく

(例) 避難指示がでたら、最寄りの避難所(学校)に行く

### ○ 最悪な状況（逃げ遅れ）から想定し、各自に適した選択肢を複数考えておく

- ①逃げ遅れ場合に、自宅でやりすごせるのか？  
やり過ごせない場合、近所に駆け込める場所はあるか？
- ②もう少し早い段階で、避難所に避難するならどこに行く？
- ③さらに早い段階で、車で移動するならどこに行く？
- ④台風が来る前に、身を寄せることのできる人はいるか？

## 防災の当たり前の“再考”

### 「防災、大事」の再考

多くの方は、「なんとなく重要」と思っているだけでは？

⇒ほとんどの人は、本気で考えているとは思えない!

### 「あれもこれも大事」の再考

多くは、被害の軽減（命を守る）よりも 不便の軽減（避難生活）

⇒災害から生きのびることが前提になり過ぎている！

### 「防災意識をもとう」の再考

あと何年言い続ければ、備えるようになるのか？

⇒プランBが必要ではないか？

# 『備えあればうれいなし』の再考

問題なのは、  
備えていないこと

多くの場合、  
言われていることを  
しておけば、  
「うれいなし」

何を備えていても、  
「どうにもならない」  
ことも稀にある

有 備  
備 え  
あ れ  
ば 患  
無 患  
患 無  
患 無  
し

思 則  
思 ば  
え す  
な  
わ  
ち  
備  
え  
あ  
り

居 安  
安 居  
思 危  
危 思  
危 思  
危 思  
う

「なんとなく」  
からの脱却

ライフスタイル  
に応じた  
最適解を  
考える

出典：「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」 左丘明の作と伝えられる  
春秋：孔子の編集の史書。前480年頃の編集と伝えられる年代記

## 提案 | 災害犠牲者ゼロの実現に向けて

日頃から 防災意識を 高くもとう！

### 提案① スイッチの切り替え

日頃から⇒ **年1回**「**災害で死ぬ可能性（＝死なない方法）**」を本気で考える

### 提案② 災害に強い生活様式への転換

意識して備える⇒ 『**普段の生活（無意識）**の中で**防災を日常化**』

### 提案③ 覚悟（防災は『生き方』の一つ）

「無自覚にしていない」 = 「**覚悟がない**」ことが問題  
「何を大切に生きていくのか」は**各自が選択すればよい**

## 私案 | 今後の防災対策の方向性

これからは、防災も…

# 『選択と集中』 > 『継続』

### ○ 本当にやるべきことだけはやる

やってないことで生じた不利益は受け入れる（覚悟をもつ）

### ○ できることを積み上げていく

これさえやっておけば大丈夫なんてことはない

### ○ 「面倒かけない」ことも協力行動

支援や手間が必要なところに集中投資することを間接的に協力

## 私案 | 市町村防災担当者さまへ…

### 住民向けには…

#### 過度なおせっかいの再考

自主防災組織の結成率は高いけど…

地区防災計画の作成支援、本当にやる意味があるのか？

#### 理想ではなく 相手をよく見て

「いつか」の対応を考えられないほど、「いま」が大変

### 職員向けには…

#### 覚悟！以上

ボランティアで成り立っている被災後対応

市町村職員は？



## 防災再考 ～具体的なご提案（自助）～

### 命を守る対策

- ⇒家具のレイアウト見直し（100%を目指せないのあれば…）
- ⇒多様な安全確保行動の検討（最悪を想定し、複数の選択肢を）

### 不便を減らす対策

- ⇒災害のためだけでない備え  
（ローリングストック、自動車の有効活用等）
- ⇒災害のための備え = トイレ！  
（断水 < 停電 < 困便？）
- ⇒避難所以外の避難生活先の確保  
（近所の他人より遠くの親戚・知人）

## 防災再考 ～具体的なご提案（共助）～

### 避難行動要支援者対策（個別計画）

- ⇒要支援者の把握（行政の絞り込みからもれた人がいるかも）
- ⇒協力者の確保（役員だけでなく、ゆるくひろく協力者を募る）
- ⇒実行可能な具体的支援策の検討（声かけも立派な支援！）

### 避難所運営方法の検討

- ⇒「避難所運営は避難者が行う」という大原則の周知徹底  
（手ぶらで避難？ / 事前避難なのに物資の提供？）
- ⇒「避難所で避難生活をしない」ことで地域に貢献  
（救援物資は避難所避難者だけのもの？）

## 防災再考 ～具体的なご提案（公助）～

### 『選択と集中』の徹底

- ⇒やる気のある地域に集中投資  
（一律の補助金ではなく、**まともに活動しているところ**に投資）
- ⇒リスクの高い地域に集中投資  
（都市部の内水対応＜**土砂災害危険地域の避難対策**）
- ⇒最低限の自助を前提とした行政対応  
（避難情報は「空振り（ミス）」⇒「素振り（練習）」への意識改革）

### 効果の確認できていない対策の抜本的見直し

- ⇒ハザードマップ（**捨てられること前提**で内容しぼって毎年配布）
- ⇒マイ・タイムライン（現状の課題を解決することに貢献するとは思えない）
- ⇒職員研修の方針転換（平時から備えましょう⇒災害時は**覚悟しとけ**）